

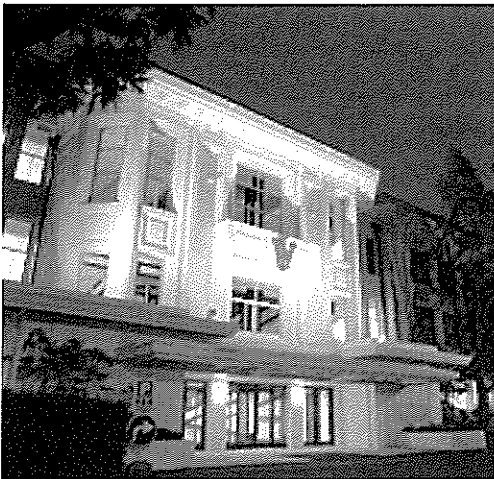
平成30年度（2018年度）

# 大学院科目等履修生

（社会人聴講生）

## 募集の手引き

### 臨床薬学特別講義



星薬科大学大学院薬学研究科

## 【 内容 】

医療現場の第一線で活躍されている先生方を講師としてお迎えし、それぞれの専門知識を教授いただきます。本制度は薬剤師の方はもとより医療関係者や製薬企業等にお勤めの方など幅広い分野の方々にもご満足いただける内容になっております。

講義は「臨床薬学特別講義」とし、全体をⅠ～Ⅳのカテゴリに分類して実施しますが、全ての講義の中から（Ⅰ～Ⅳの分類に関係なく）希望する内容の項目をコマ（講義）単位で受講することが可能です。

## 【大学院科目等履修生】

大学院夜間講義の聴講を希望する方は「大学院科目等履修生」として登録することにより、受講することが可能です。

平成21年度までは、1単位ごとに受講する方法と、1コマ（講義）単位で受講する方法の2つを設定していましたが、平成22年度からは、1コマ（講義）単位で受講する方法のみとし、社会人の方々が仕事の都合と調整しながら、希望する講義を受講できるようにしました。

### ① 受講資格

修業年限4年以上の大学を卒業した方又は本研究科委員会において同等以上の学力があると認められた方

### ② 講義科目

- ・臨床薬学特別講義Ⅰ
- ・臨床薬学特別講義Ⅱ
- ・臨床薬学特別講義Ⅲ
- ・臨床薬学特別講義Ⅳ

I～Ⅳのカテゴリ分類に関係なく希望する内容の項目をコマ（講義）単位で受講することが可能です。

### ③ 受講、成績及び単位認定

- ・コマ（講義）単位の受講であるため、試験は行いません。
- ・毎時間講義開始前に受講票\*（レポート）をお渡しますので、講義中に当日の講義内容をまとめ、終了時に提出し、そのレポートを集計して成績の判定を行います。
- ・8コマ（講義）の受講で1単位とします。（予め8コマを届け出ることが必要です。）  
また、8コマ（講義）の受講は、当該年度内とします。
- ・Ⅰ～Ⅳの分類に関係なく受講することが可能であるため、最も多く受講したカテゴリの単位を修得したものとします。

\*受講票（レポート）は複写式になっており、1枚は提出しますが、1枚は自分の受講ノートとして持ち帰ることが可能です。

④ 講義の場所及び講義時間

講義場所 星薬科大学 新星館 2階の講義室を予定

講義時間 19:00～21:00 (120分)

⑤ 提出書類

- ・ 「科目等履修生申込書（写真貼付）」（所定用紙）
- ・ 「履修コマ（講義）申込表」（所定用紙）

各講義の受講者を確定させるために、予め受講するコマ（講義）を届け出ることを原則とします。

⑥ 申込期限

コマ（講義）単位の受講になりますので、申し込みは随時受け付けますが、講義が行われる3週間前までを原則とします。

⑦ 選考方法

- ・ 書類選考の上、受講者を決定します。
- ・ 選考結果等につきましては、別途通知いたします。

⑧ 科目等履修料及び受講方法

- ・ 登録料 10,000円（初年度のみ）

※ただし、5年間履修がなかった場合は再登録となります。

- ・ 科目等履修料 1コマ（講義）につき3,000円

- ・ 受講方法 受講を許可された方は、受講日当日に管理系事務室前の券売機にて受講料分の証紙を購入し、教学系事務室にて「受講カード」を記入の上、受講して下さい。

⑨ 注意事項等

1. 一度提出した書類ならびに納付金は返還いたしません。
2. 出願に際し、虚偽の記載又は申告などの事実があるときは履修許可を取り消すことがあります。
3. 学生証は交付いたしません。

⑩ 証明書の発行

科目等履修生で願ひ出る方には、科目等履修期間証明書を交付いたします。

⑪ 書類提出及び問い合わせ先

〒142-8501 東京都品川区荏原2-4-4 1

星薬科大学 教務部

Tel. 03-5498-5816・5817（直通）

Fax.03-5498-5976

E-mail : kyomu@hoshi.ac.jp

なお、不明の点がありましたら上記までお問い合わせ下さい。

臨床薬学特別講義担当者一覧

カテゴリ	氏名	所属
I	和泉俊一郎	東海大学 医学部 専門診療学系 産婦人科学部門
I	岡野栄之	慶應義塾大学医学部生理学教室
I	鈴木 勉	星薬科大学 (特任教授)
I	林 同文	日本郵船(株) NYKグループ 健康管理センター
I	宮田 博	横浜市民病院 眼科
I	山田 悟	北里研究所病院 糖尿病センター
II	天野 託	国際医療福祉大学 薬学部 薬物治療学講座
II	塩見哲也	神奈川県警友会 けいゆう病院
II	芹澤 宏	日立システムズ健康推進センター産業医
II	中村 薫	中村クリニック 泌尿器科
II	野村総一郎	一般社団法人 日本うつ病センター
III	赤石 誠	東海大学医学部内科系循環器内科東京病院
III	岡野シヰム洋尚	東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
III	岡本真一郎	慶應義塾大学医学部内科学教室 (血液内科)
III	波田野 琢	順天堂大学 医学部 脳神経内科
III	光永修一	国立がん研究センター先端医療開発センターバイオマーカー探索 TR 分野医長
III	村瀬 忠	独協医科大学越谷病院臨床検査部特任教授
III	村田 満	慶應義塾大学 医学部 臨床検査医学
III	山川 正	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター 内分泌・糖尿病内科
IV	稲山嘉明	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター 病理診断科
IV	上原馨志夫	共立女子大学 家政学部 臨床栄養学
IV	北川 明	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター臨床研究企画戦略部シーズ探索室・臨床研究推進部プロジェクトマネジメント室・クリニカルイノベーションネットワーク推進室 (併任)
IV	長嶋洋治	東京女子医科大学病院 病理診断科
IV	信川益明	医療法人社団千禮会
IV	竜崎 崇和	東京都済生会中央病院 腎臓内科

星薬科大学 大学院 平成30年度 講義（夜間）時間割

『臨床薬学特別講義 I～IV』

講義時間 19:00～21:00 (120分 1コマ)

(前期)

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	5/1	5/2	5/3 祝日	5/4 祝日
5/7	5/8 臨床薬学特別講義IV 信川①	5/9	5/10	5/11 臨床薬学特別講義III 岡野(シ)①
5/14	5/15 臨床薬学特別講義IV 信川②	5/16	5/17 臨床薬学特別講義III 赤石①	5/18 臨床薬学特別講義III 岡野(シ)②
5/21	5/22	5/23 臨床薬学特別講義II 野村①	5/24 臨床薬学特別講義III 赤石②	5/25
5/28	5/29	5/30 臨床薬学特別講義II 野村②	5/31 臨床薬学特別講義III 村田	6/1
6/4	6/5	6/6 臨床薬学特別講義I 鈴木①	6/7 臨床薬学特別講義II 中村①	6/8
6/11	6/12 臨床薬学特別講義I 林	6/13	6/14	6/15 臨床薬学特別講義IV 長嶋
6/18	6/19	6/20 臨床薬学特別講義III 岡本	6/21 臨床薬学特別講義II 中村②	6/22
6/25	6/26	6/27 臨床薬学特別講義IV 上原①	6/28	6/29
7/2	7/3	7/4	7/5 臨床薬学特別講義I 岡野栄之	7/6 臨床薬学特別講義II 天野①
7/9	7/10	7/11 臨床薬学特別講義IV 上原②	7/12	7/13 臨床薬学特別講義II 天野②
7/16 祝日	7/17	7/18	7/19	
夏期休業期間 7/20～9/10				
	9/11 臨床薬学特別講義I 鈴木②	9/12	9/13	9/14
9/17 祝日	9/18 前・後期間休暇	9/19 前・後期間休暇	9/20	9/21

(後期)

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9/24 祝日	9/25	9/26	9/27	9/28
10/1	10/2	10/3 臨床薬学特別講義II 芹澤①	10/4	10/5 臨床薬学特別講義IV 稲山
10/8 祝日	10/9	10/10 臨床薬学特別講義III 山川	10/11	10/12
10/15	10/16 臨床薬学特別講義II 塩見①	10/17 臨床薬学特別講義II 芹澤②	10/18	10/19
10/22 臨床薬学特別講義I 宮田	10/23 臨床薬学特別講義II 塩見②	10/24	10/25	10/26 星薬祭準備
10/29	10/30 臨床薬学特別講義I 和泉①	10/31 臨床薬学特別講義II 芹澤③	11/1	11/2
11/5 臨床薬学特別講義I 山田①	11/6 臨床薬学特別講義I 和泉②	11/7	11/8	11/9 臨床薬学特別講義III 光永①
11/12	11/13	11/14	11/15 臨床薬学特別講義III 波田野①	11/16 臨床薬学特別講義III 光永②
11/19 臨床薬学特別講義I 山田②	11/20 臨床薬学特別講義III 村瀬	11/21	11/22	11/23 祝日
11/26	11/27 臨床薬学特別講義IV 竜崎	11/28	11/29 臨床薬学特別講義III 波田野②	11/30
12/3	12/4	12/5	12/6	12/7 臨床薬学特別講義IV 北川
12/10	12/11	12/12	12/13	12/14 OSCE準備
冬期休業期間 12/17～1/7				
	1/8	1/9	1/10	1/11
1/14 祝日	1/15	1/16	1/17	1/18 7/7試験準備日

## 臨床薬学特別講義 I~IV 講義内容

【前期】

5/8(火)	IV	薬局におけるプライマリ・ケア	信川益明	・プライマリ・ケアを考える上で重要な医療の捉え方 ・包括医療における薬剤師の役割とは ・薬局はどのようにプライマリ・ケアを行うか ・薬局はどこまでプライマリ・ケアを行うか ・薬局はどのようにして生き残りをはかるか
5/11(金)	III	神経外傷・変性疾患に対する再生戦略①	岡野ジエイ 洋尚	脊髄損傷などの神経外傷に対する新規治療法の開発を目指した再生医学研究について最新の知見を紹介する。
5/15(火)	IV	薬剤師に求められるプライマリ・ケア医(かかりつけ医)の役割と医療連携	信川益明	・プライマリ・ケアを助ける医療連携とは ・薬剤師と他の医療関係者との連携をどのように構築するか ・プライマリ・ケアの推進と医療連携 ・医療連携システム推進のための方法論
5/17(木)	III	循環器病学①	赤石 誠	循環器疾患において病態を解析評価することにより適切な薬剤を使用することが可能となる場合が多い。それらの病態の把握方法と薬剤の選択について概説する。
5/18(金)	III	神経外傷・変性疾患に対する再生戦略②	岡野ジエイ 洋尚	動物モデルを用いた神経変性疾患の病態研究および検査技術の開発、新規治療戦略について述べる。
5/23(水)	II	精神医学①	野村総一郎	薬剤師の知っておくべき精神医学の知識(精神医学総論、各論として統合失調症、神経症、うつ病など)について講義する。
5/24(木)	III	循環器病学②	赤石 誠	循環器疾患において病態を解析評価することにより適切な薬剤を使用することが可能となる場合が多い。それらの病態の把握方法と薬剤の選択について概説する。
5/30(水)	II	精神医学②	野村総一郎	薬剤師の知っておくべき精神医学の知識(精神医学総論、各論として統合失調症、神経症、うつ病など)について講義する。
5/31(木)	III	薬剤師に必要な臨床検査の知識	村田 満	臨床検査、特に検体検査の基本とデータ解釈を学ぶ。最近の話題として遺伝子検査をとり上げ解説する。
6/6(水)	I	薬物依存	鈴木 勉	代表的な依存性薬物であるアルコール、覚せい剤、鎮静催眠薬、メチルフェニデート、さらに近年社会問題化している危険ドラッグや医療用大麻についても解説する。さらに、麻薬や向精神薬の国際規制と国内法についても解説する。

6/7(木)	II	前立腺疾患	中村 薫	高齢化社会に伴い、患者数が急増している前立腺疾患(前立腺肥大症)をとりあげて診断の進め方、薬物療法の実際、の解説を行う。
6/12(火)	I	循環器系疾患とEBM	林 同文	循環器系疾患とは、心臓を中心とした全身の動脈・静脈系の病気を示す。特に動脈硬化の原因となる、糖尿病や高血圧を含めた生活習慣病やメタボリック症候群なども含まれ、最も患者の多い専門領域の1つである。これらの病態だけでなく、治療薬におけるEBM(Evidence-Based Medicine)の考え方について薬学部学生として必要な知識を概説する。
6/15(金)	IV	腫瘍と病理学	長嶋洋治	腫瘍の定義、細胞学的特徴、がん遺伝子について概説する。加えて病理学的研究を実例をあげて提示する。
6/20(水)	III	造血器腫瘍の治療	岡本真一郎	造血器腫瘍に対する新しい薬物療法についてわかりやすく説明する。
6/21(木)	II	前立腺癌の診断と治療	中村 薫	年間の罹患数が98000人に急増している前立腺癌をとりあげて、がん検診による早期診断および薬物・内分泌療法、手術・放射線治療の実際を紹介する。
6/27(水)	IV	医薬品による腎臓、肝臓、消化管、循環器障害①	上原啓志夫	医薬品による腎障害、肝障害、消化管障害および循環器障害などを取り上げ、臨床症例を中心に多角的に最近の考え方を講義する。
7/5(木)	I	iPS細胞技術と遺伝子改変遺伝子を用いた再生・疾患研究と革新的脳科学	岡野栄之	中枢神経系の再生医学と疾患研究さらには先端的脳科学研究について、iPS細胞技術と遺伝子改変遺伝子を用いた成果と今後の展望について判り易く解説し、双方向的な議論をしたいと思います。
7/6(金)	II	①新規抗うつ薬の薬理作用と使い方 ②自分の性格	天野 託	抗うつ薬、と抗躁(そう)の薬理作用ならびに症例を用いた使い方を取り上げる。また、自分の性格について診断してみよう。
7/11(水)	IV	医薬品による腎臓、肝臓、消化管、循環器障害②	上原啓志夫	医薬品による腎障害、肝障害、消化管障害および循環器障害などを取り上げ、臨床症例を中心に多角的に最近の考え方を講義する。
7/13(金)	II	①抗精神病薬の使い方 ②ニューロサイエンスと精神病理学 ③「パーソナリティ障害」と「困った人たち」	天野 託	精神病理学について簡単に講義する。抗精神病薬の使い方を症例を用いて取り上げる。パーソナリティ障害の病型と病態について講義する。

9/11(火)	I	オピオイド鎮痛薬	鈴木 勉	WHO 方式がん疼痛治療法を説明する。本法で中心的な役割を果たしているオピオイド鎮痛薬の種類が年々増加している。そこで、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル、メサドン、タベンタドール、ヒドロモルフォンなどの中等度から強度の痛みを持ちいる鎮痛薬、さらにトラマドールについても解説する。
---------	---	----------	------	---

【後期】

10/3(水)	II	消化器疾患の病態、治療①	芹澤 宏	消化器領域で日常臨床で遭遇する機会の多い代表的な疾患の病態生理と薬物を中心とした治療につきスライドを用いた講義を行う。上部消化管疾患では逆流性食道炎、胃炎、胃潰瘍およびそれに大きく関連するピロリ菌感染、下部消化管では感染性腸炎、および潰瘍性大腸炎/クローン病といったいわゆる炎症性腸疾患について述べる。
10/5(金)	IV	外科病理学	稲山嘉明	臨床医学における外科病理診断学の位置づけ、そのプロセスや意義を実例をまじえながら概説する。
10/10(水)	III	治療薬学	山川 正	肥満の病態と最新の治療戦略
10/16(火)	II	呼吸器病学①	塩見哲也	呼吸生理学の基礎と呼吸器疾患の病態生理を解説し、各種呼吸器疾患の治療における薬物療法の重要性を述べる。(慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎を中心に解説する。)
10/17(水)	II	消化器疾患の病態、治療②	芹澤 宏	消化器領域で実質臓器である肝胆道系の疾患について講義を行う。急性ならびに慢性肝炎(特にウイルス性)、肝硬変、急性ならびに慢性膵炎、さらに胆石症や胆道感染症を扱う。
10/22(月)	I	眼科	宮田 博	眼科薬物治療では、点眼治療が、効率が良く、全身副作用が少ないため、最も用いられている。点眼薬としては結膜炎の治療薬の処方が多い。合成抗菌薬、抗アレルギー薬、ドライアイの治療薬、ステロイド薬、非ステロイド抗炎症薬が用いられる。日本で失明原因第一位である緑内障は、薬物治療が主体であり、多種類の点眼薬が用いられている。点眼治療のほかには、近年血管内皮増殖因子阻害薬の硝子体内注射の適応が拡大した。症例数が多い白内障は手術治療が主体であるが、周術期は薬剤を補助として用いる。これら眼科の薬物治療の実際につき述べる。

10/23(火)	II	呼吸器病学②	塩見哲也	呼吸生理学の基礎と呼吸器疾患の病態生理を解説し、各種呼吸器疾患の治療における薬物療法の重要性を述べる。(肺癌に関して)
10/30(火)	I	婦人科①： エストロゲンを中心に	和泉俊一郎	エストロゲンに関係する疾患の病態を生理と薬物療法も含めて解説する。
10/31(水)	II	消化器疾患の病態、治療③	芹澤 宏	消化器領域の腫瘍性疾患を扱う。悪性疾患を中心に食道がん、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆のうがんの外科的および内科的治療について概説する。
11/5(月)	I	糖尿病	山田 悟	糖尿病の病態と治療
11/6(火)	I	婦人科②： ARTを中心に	和泉俊一郎	卵子をめぐる医療について薬物療法を絡めて解説する。
11/9(金)	III	膵臓癌の病態と治療開発①	光永修一	膵臓癌の病態と標準治療を解説する。
11/15(木)	III	神経症候学	波田野琢	神経疾患は身体所見のとり方が重要である。本講義では所見からどの様な病態が診断出来るか？解剖学的な病巣はどこか？について述べる。
11/16(金)	III	膵臓癌の病態と治療開発②	光永修一	膵臓癌の病態と標準治療を考慮した治療開発について実例を用いて提示する。
11/19(月)	I	栄養	山田 悟	脂質異常症の病態と治療
11/20(火)	III	白血病の診断と治療	村瀬 忠	白血病についてその診断・分類と病態を述べ、その最近の話題および薬物療法を含めた治療の基本的な考え方、また新規薬剤について論じる。
11/27(火)	IV	腎疾患の病態と薬物	竜崎 崇和	主な腎疾患(IgA腎症、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症等)の病態から薬物療法を考える。また腎機能に応じた薬物治療の留意事項も概説したい
11/29(木)	III	パーキンソン病の病態-治療	波田野琢	神経変性疾患の代表的な疾患であるパーキンソン病の病態及び治療について述べる。
12/7(金)	IV	治験におけるSMO、CRCの役割とその将来	北川 明	医薬品開発において重要な役割を担う治験において、治験の実施現場としての医療機関における、治験の質およびスピードの維持・向上のため、SMO(Site Management Organization)という新しい概念に基づく仕組みの活用が、その問題解決の切り札として期待されている。SMOの現状および問題点を整理するとともに本来あるべきSMOの姿を議論したい。

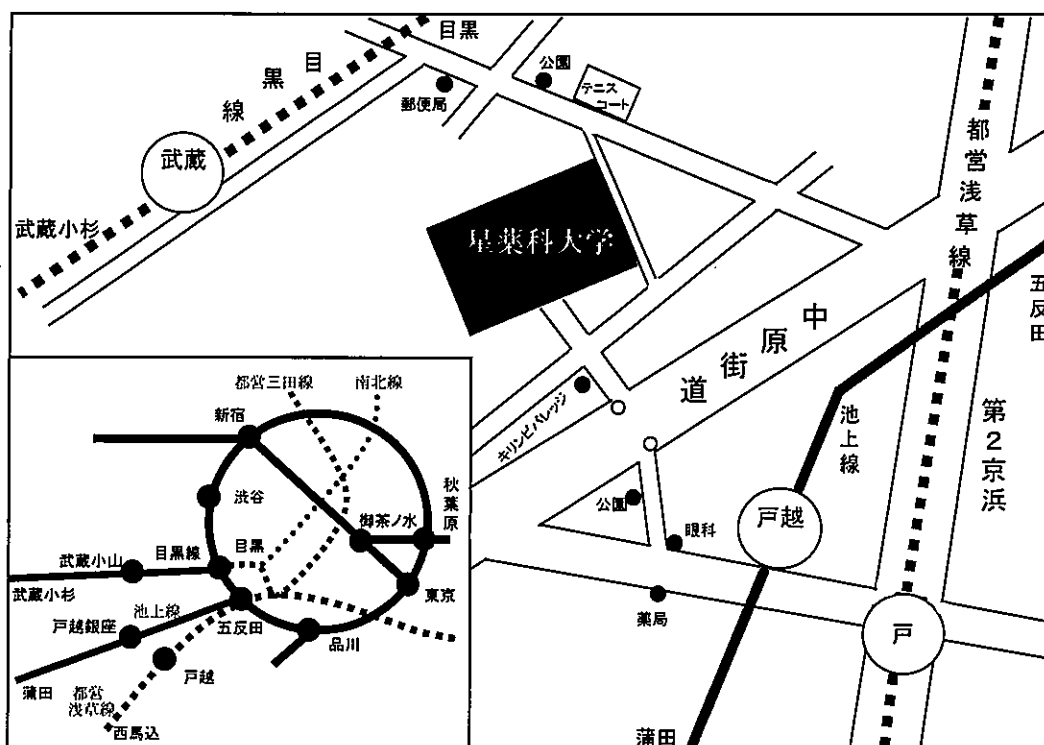
## 交通／案内

- 最寄り駅 JR山手線五反田駅で東急池上線に乗換えて戸越銀座駅下車 徒歩8分  
東急目黒線：武蔵小山駅下車 徒歩12分  
地下鉄：都営浅草線 戸越駅下車 徒歩10分

※駐車場は用意しておりませんので、お車での通学はご遠慮下さい。

※本学には正門（中原街道側）以外に北門と西門がありますが、夜間は閉鎖しておりますので、通学には正門をご利用ください。

## 本学へのアクセス



東急池上線(五反田から3分)「戸越銀座」下車徒歩8分

東急目黒線(目黒から3分)「武蔵小山」下車徒歩12分

都営地下鉄浅草線「戸越」下車徒歩10分



ホームページアドレス  
<http://www.hoshi.ac.jp/>